

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

中津川市公共交通会議

平成20年6月4日設置

令和3年6月18日 フィーダー系統 確保維持計画策定

令和4年1月20日 中津川市地域公共交通計画へ移行
(計画期間：平成30年4月～令和9年3月)

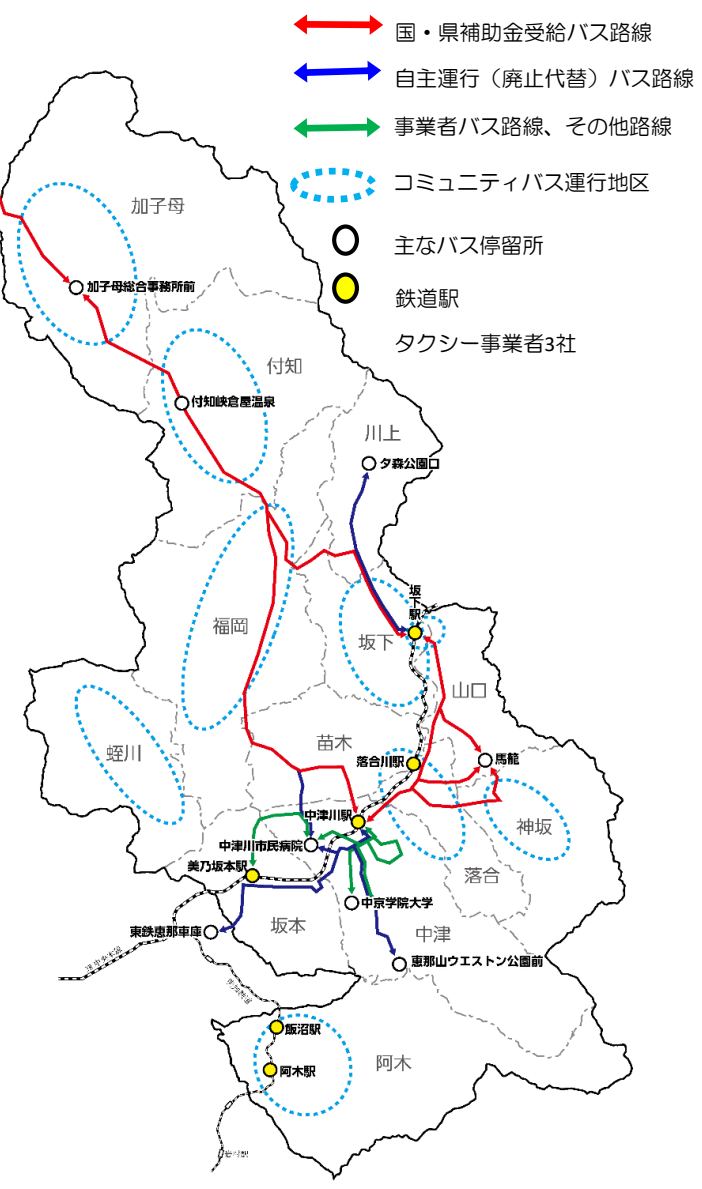
令和5年1月18日 令和4年度評価結果送付

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ① 利用者の減少で地域公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 人口減少・高齢化（国調△2,313人、高齢化率32.9%）
 - ✓ 東濃鉄道(株)が市内から撤退
 - ✓ コロナ感染症拡大により移動需要が減少
- ② 誰もがわかりやすい公共交通となっていない
 - ✓ バスを利用する外国人旅行者に対する案内不足
 - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③ 運転手不足で地域公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通計画（2022.1改定）

- 基本方針
 - ✓ 住んでよかった、住んでみたい街に
- 目標
 - ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
 - ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
 - ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に
- 期間
 - ✓ 2018年度～2026年度までの9年間



目指す姿とは 利用者確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

■ 地域公共交通計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、パーク&ライド、地域公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、安全安心なバス停環境の整備 など
②観光と利用促進	公共交通を使った市内観光の推進、インターネットによる経路検索の充実 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

■ 2021-2022年度に実施した主な取り組み

■ 苗木城フリー乗車券の発行（R4.1～発行開始）

②利用促進

路線バスを利用した苗木城観光を！

- 観光シーズンの土日祝運行
- 中津川駅前⇔苗木バス停間で利用可(観光シーズン外)
- 中津川駅前⇔苗木城バス停(季節運行)



実績

R4.春運行 138人
R4.9～県観光部局によるプレスリリース
R4.秋運行 781人

考察

利用者が増加し、地域観光資源との連携が期待できる路線となった

★コミュニティバスの路線再編(R4.10～)

①定住を支える

目的を明確にした路線に再編

- 福岡地区 アンケート結果により、温泉施設に特化した路線を、**地域で通院・買い物**ができる区域運行に再編
住民によるバス検討委員会を開催（5回）

実績

運行開始

考察

地域による協議を経て、地域住民の利便性向上につながる路線となった

■ 2020-2021年度の取り組み… 蛭川地区のバス再編

高校生がバスで通える街に！

東鉄バス廃止路線とコミバスを合わせた再編を実施し、学生通学便の新設。堅調に利用され、学生のバス通学が可能となった。利用者数1,329人（R3.10～R4.9）

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

■ 地域公共交通計画における評価指標の考え方

- ✓ 網形成計画や地域公共交通計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ① **いつまでも中津川市に住み続けられる**（高校生が自宅から通うことができる）
 - ② **住民や来訪者による公共交通利用者を確保**することを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 地域公共交通確保維持改善計画における目標値は、地域公共交通計画の評価指標との整合性を図るため、補助対象系統ごとの利用者数を基準年度以上とした。
- ✓ 評価指標の数値は、社会情勢等を踏まえ2023年度に見直しを行う。

■ 地域公共交通計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標		①北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	②住民1人あたりの公共交通年間利用回数
基準年度	2021年度	25.3%	6.7回/人
目標年度	2026年度	25.3%以上	6.7回/人以上
実績【評価】	2021年度	25.3%	6.7回/人
	2022年度	27.8%【達成】	7.5回/人【達成】
参考 ※地域公共交通網形成計画目標値	2016年度	30.6%	8.6回/人
考察		<ul style="list-style-type: none"> • 沿線地区内の学生数は減少傾向にあるが、福岡・苗木地区の学生によるバス通学が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルスの影響後、回復傾向だが、以前の水準に至っていない。 • 付知峡倉屋温泉を利用できるセット券購入者増加により、付知峡線の利用者が増加している。

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

■ 目標達成状況についての考察（路線別の事業評価概要）

- ・ 系統ごとに経年比較し、利用状況を把握
- ・ 網形成計画と整合性を図るため、目標値は系統ごとの利用者数を基準年度以上とする

区分	(上段) 利用人数、(下段) 達成率			主な考察・備考
	2021(基準)	2021(実績)	2022(実績)	
民間路線バス (補助系統)	253,025 -	253,025 100%	262,633 103.8%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国人労働者の定期的な通勤利用がある。 ○ 市による高校生バス通学定期購入補助の改正や周知により、福岡・苗木地区の学生利用が増加した。 ○ 付知峡倉屋温泉を利用できるセット券購入者の増加により、付知峡線の利用者が増加している。
民間路線バス (非補助系統)	154,995 -	154,995 100%	176,186 113.7%	<ul style="list-style-type: none"> × 新型コロナウイルスの影響後、回復傾向であるものの、以前の水準に至っていない。 × 中京学院大学行きのバスで、増車対応する機会が減っている。
自主運行バス (廃止代替バス)	49,621 -	49,621 100%	57,670 116.2%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坂本三坂線（東鉄バス中津川線廃止代替路線）が運行開始から1年以上が経過し、堅調に推移している。 ○ 地域との協議の上、小学生や高校生が通学、帰宅に利用できる便を設定したことにより学生利用が増加し、堅調に推移している。（阿木・蛭川地区）
自主運行バス (コミバス)	19,623 -	19,623 100%	23,306 118.8%	<ul style="list-style-type: none"> × 頻繁に利用していた方が利用しなくなる。（利用者の高齢化。認知症、施設へ入所、死亡など） × 新型コロナウイルスの影響により、利用者が減少後、利用者が戻っていない。
明知鉄道乗車数 (阿木・飯沼駅)	35,352 -	35,352 100%	46,903 132.7%	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルスの影響により減少した学生による定期利用が、戻りつつある。 × 鉄道輸送人員は、コロナ禍前の2019年度と比較して38.3%減少した。
合計	512,616	512,616	566,698	<p>【参考】 住民基本台帳人口（9月末）</p> <p>2021（基準） 76,553人</p> <p>2021（実績） 76,553人</p> <p>2022（実績） 75,663人（▲1.2%）</p>

4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

来訪者による公共交通利用を促進し、地域公共交通の維持に繋がります

地域資源を活用、移動と目的をセットに

課題

- ・ 路線バスに乗り中津川駅前から馬籠宿、その後妻籠宿へ行く欧米からの個人旅行者が多数でしたが、コロナ禍により減少しました。
- ・ インバウンドだけでなく、国内観光客にも路線バスを利用してもらうことが必要です。



フリー乗車券硬券

教訓

- ・ 魅力ある路線づくりには、**この場でしか体験できない経験や景色**を組み合わせることが重要です。

対応

- ・ 苗木城線、馬籠線、付知峡線でフリー乗車券を販売しました。
苗木城線フリー乗車券利用状況（2022年春）
往復利用57名 片道利用24名 計138名



令和元年実施のグリーンスローモビリティ実証運行

順位	項目	満足度
1	ガイドの案内(N=36)	4.80
2	落合の石畳(N=33)	4.75
3	車窓の景色(N=36)	4.71
4	落合宿本陣(N=36)	4.66
5	低速電動バス(N=36)	4.60
6	馬籠宿(N=30)	4.59

実証運行アンケート結果

今後

- ・ 既存路線バスと地域観光資源を連携させた付加価値の高い観光商品を開発し、移動と目的をセットにした「**稼げる路線**」を創ります。
- ・ 市へ訪れる観光客に企画切符を利用してもらい、**地域公共交通の維持**に繋がります。

通行止め期間中の住民の公共交通を確保します

神坂地区コミュニティバス再編を地域と検討

課題

- ・ 2023年10月頃から神坂スマートIC工事に伴う通行止により、神坂地区から**市街地へ向かう公共交通がなくなり**、買い物や通院ができなくなります。

今後

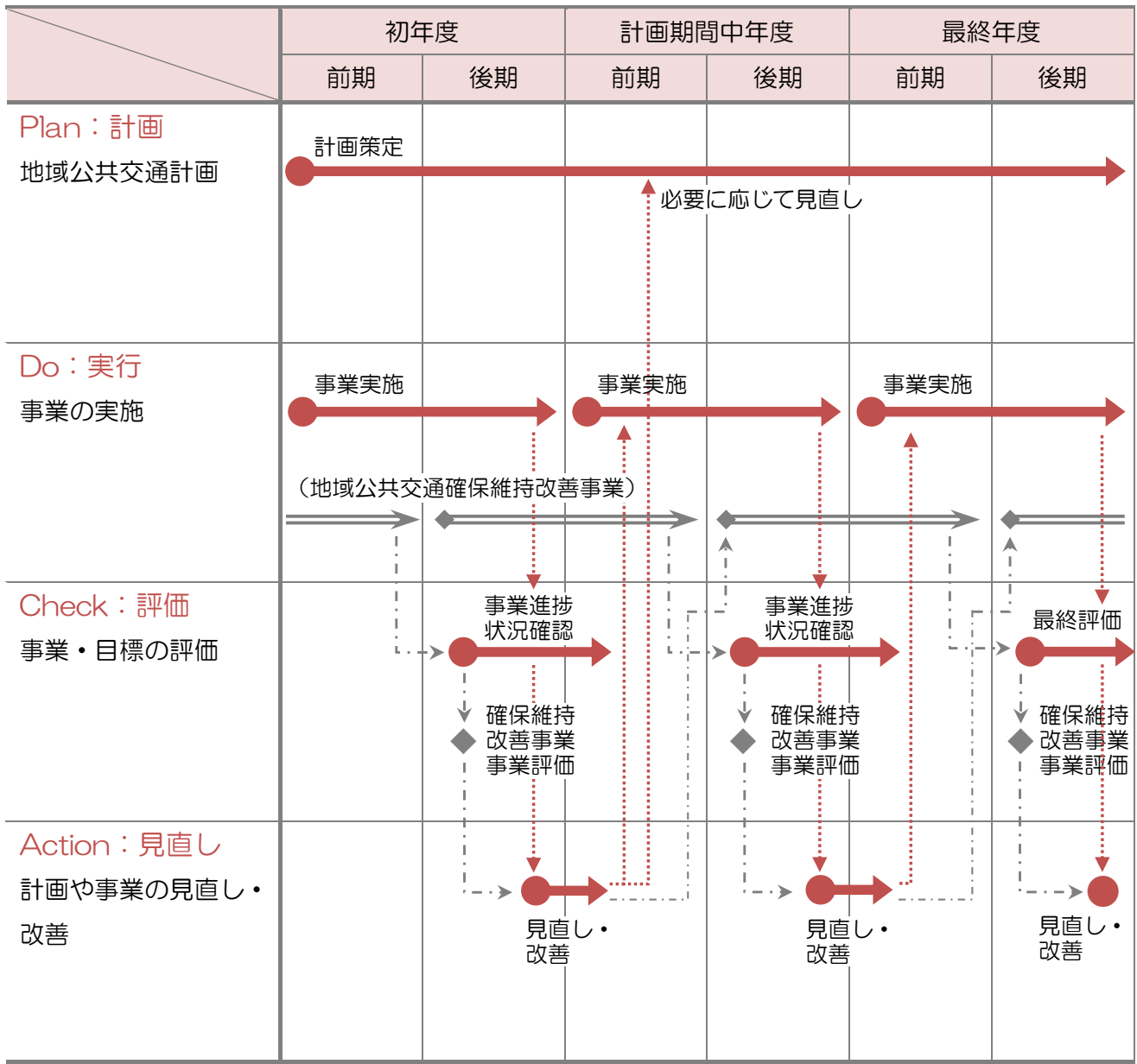
- ・ 2023年10月に市コミュニティバスを延伸し、神坂地区と落合地区を繋ぐ路線に**再編**します。
- ・ 地元区長会で現状認識共有と課題の洗い出しを行い、意見収集を実施中です。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃止代替手段として運行を開始した坂本三坂線について、市民病院の利用を取り込むなどの見直しを行った結果、以前の運行路線よりも利用者が増加していることを評価します。 ・ 福岡地区の路線の見直しについて、地区バス検討委員会を開催し、課題の把握や利用状況調査を行ったことを確認しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福岡地区コミュニティバス <ul style="list-style-type: none"> ・ 路線を見直し、令和4年10月から新しい路線で運行を開始しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福岡地区コミュニティバス <ul style="list-style-type: none"> ・ 順調に運行を開始し、今後も運行状況を注視します。 ・ 新規の利用者が増え始めています。 ・ 地域住民への周知と更なる意見収集のため、コミュニティバスのモニター乗車の実施を検討しています。
前々回	<p>民間路線バスの一部路線廃止の申し出を受け、速やかに代替手段の方策を関係者で協議、より良い公共交通を作る契機と捉えて、これまでの関係者間で構築された緊密なつながりにより、令和2年4月からの再編計画を策定したことを評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東鉄バス中津川線廃止代替路線（坂本三坂線） <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年4月から運行開始しました。 ■ 東鉄バス蛭川線廃止代替路線（蛭川地区コミバス） <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年4月から運行開始しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 坂本三坂線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 順調に運行・利用されており、今後も運行状況を注視します。 ■ 蛭川地区コミバス <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の帰りの運行時間を利用者と運行事業者の意見を聞き変更予定です。

※前回：令和4年3月10日、前々回：令和3年3月1日

■ 地域公共交通計画・目標の評価スケジュール及び直近の公共交通会議開催状況

● 本計画及び目標の進捗状況は、次の評価スケジュールに基づき進めます。



- 令和4年度
- 第1回 令和4年6月28日
 - 第2回 令和4年9月20日
(書面開催)
 - 第3回 令和4年12月12日
(書面開催)
 - 第4回 令和5年1月11日

中運交企第151号
令和5年3月10日

中津川市公共交通会議
会長 渡邊 卓 殿

中部運輸局長
(公印省略)

令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】
中部運輸局交通政策部 交通企画課
TEL:052-952-8006

自治体・協議会名	中津川市公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・福岡地区及び蛭川地区の路線の見直しを行い、利用目的や利用したい施設等ニーズに合わせた公共交通に再編したことを評価します。
- ・観光事業と連携して企画乗車券を発行し、地域観光資源との連携強化及び利用者の増加につながったことを評価します。
- ・官民共同で新たなモビリティサービス「付知bin」の社会実験を行い、自動運転など新たな輸送サービスにつながる取り組みを行っていることを確認しました。

期待する取組

- ・GTFISを活用した利用促進によるPR等の取組を更に押し進められることを強く期待します。
- ・各目標の評価指標は次年度以降の計画の見直しの際に、現状に合っているか、追加すべき指標がないか等検討されることを期待します。
- ・市内公共交通への自動運転技術の導入など新たな輸送サービスの検討に際しては、地域の公共交通網のあるべき姿と一体的な議論・検証が行われることを引き続き期待します。
- ・リニア中央新幹線岐阜県新駅に係るアクセス交通のあり方について、関係機関との検討を前広に進めることを期待します。
- ・神坂地区の路線再編にあたっては、地区バス検討委員会において利用目的や利用したい施設等を明確にし、利用者のニーズに合わせた公共交通が実現することを期待します。
- ・市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、引き続き現状や問題意識を県・関係事業者と共有すると共に、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。

No.	地区	路線名	乗合			便数	人数	1便平均	備考	利用状況	事業の今後の改善点 (特記事項を含む)		
			路線 定期	路線 不定期	区域								
1	落合	落合巡回線	○			297	206	0.7		利用者が少ない。 R5見直し予定	【R5見直し】検討部会で自治会代表者だけでなく、民生委員や福祉担当者を交えて意見を募り再編。		
3	落合	山の田・三五沢線	○			198	123	0.6					
2	落合	平石・釜沢線			○	20	20	1.0	デマンド				
4	落合	瀬戸線			○	1	1	1.0	デマンド				
5	阿木	阿木巡回線			○	288	291	1.0		巡回線の利用者は少ない	引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。		
6	阿木	みちくさ線			○	179	2,065	11.5		みちくさ線は、主に児童の下校スクールバスとして利用されている。			
7	神坂	神坂線(霧が原・細野)			○	0	0	-	デマンド	利用者がほとんどいない。10月～3月は利用がなかった。	【R5見直し】地域内に病院や買い物できる店舗がないため、隣の落合地区まで行く便を検討。		
8	神坂	神坂線(向山)			○	3	4	1.3	デマンド	R5見直し予定			
9	坂下	上野線	○			450	1,353	3.0		・例年通り、登下校の児童・生徒の利用が多く、特に週初め月曜日は一斉下校のため多い。	・主に帰宅する小中学生のスクールバスとして利用されている。 ・児童生徒の利用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。		
10	坂下	外洞線	○			453	2,538	5.6					
11	坂下	外洞線(きりら経由)	○			354	341	1.0					
12	坂下	上野・外洞線(短縮)	○			458	4,829	10.5					
13	坂下	上野・外洞線	○			486	1,247	2.6					
14	坂下	外洞線	○			246	269	1.1					
15	坂下	合郷線	○			246	187	0.8					
16	坂下	上鐘・松源地線	○			369	452	1.2					
17	坂下	上野・合郷線	○			209	517	2.5					
18	坂下	上野線	○			208	186	0.9					
19	坂下	西方寺・握・高部線	○			246	191	0.8					
20	坂下	外洞線(きりら経由)	○			143	179	1.3					
21	坂下	合郷線	○			100	100	1.0					
22	坂下	上鐘・松源地線	○			216	231	1.1		駅前または坂下診療所前から乗車する利用客が毎月一定数おり、定期的に利用されている。 ショッピングセンター付近のバス停を復活させたことで定期利用者が増加。	見直し直後であるため、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。		
23	坂下	上野・合郷線	○			123	148	1.2					
24	坂下	上野線(きりら経由)	○			100	90	0.9					
25	坂下	西方寺・握・高部線	○			117	61	0.5					
26	山口	黍生・麻生線			○	117	119	1.0	デマンド			1便1人という状況が続いている	利用者を集約するため利用日を限定し集約する等の対策が必要
27	加子母	加子母巡回線			○	586	2,903	5.0		地域のコミュニティの場として利用されており利用率が高い。	引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。必要に応じて適時見直しを行う。		
28	付知	付知北巡回線			○	192	305	1.6		フリー降車区画が好調。フリー降車区間の間合せが一定数あるため周知が必要。	引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。必要に応じて適時見直しを行う。 付知地区全戸に路線と時刻表を配布して周知。		
29	付知	付知南巡回線			○	200	140	0.7					
30	福岡	矢平線	○			104	20	0.2		【R4.10見直し】			
31	福岡	若山線	○			104	7	0.1					
32	福岡	本郷線	○			106	19	0.2					
33	福岡	上之平・下組線	○			106	19	0.2					
34	福岡	新田線	○			106	134	1.3					
35	福岡	田瀬線	○			94	65	0.7		住民アンケートの結果により、R4.10よりほっとサロン利用に特化していた路線を、地域で通院・買い物ができる区域運行に見直しを実施。 若干利用人数が増加。特に田瀬地区からの新規利用者が増加した。 しかし、コロナ前の利用者数までは回復していない。 (高山地区の利用者が少ない)	見直し直後であるため、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。		
36	福岡	下野新田線	○			94	135	1.4					
37	福岡	田瀬線・下野新田線共通	○			94	10	0.1					
38	福岡	上之平・下組線	○			100	17	0.2					
39	福岡	福岡川西線	○			100	23	0.2					
40	福岡	高山線	○			100	7	0.1					
41	福岡	上之平下組・福岡川西・高山線共通	○			100	8	0.1					
42	蛭川	高校生通学便			○	319	1,343	4.2				主に児童学生のスクールバスとして利用されている。	引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
43	蛭川	小学生通学便			○	494	5,418	11.0				高校生通学便の下校利用者が減少している	高校生下校便で席に空きがあれば予約が無くとも乗車できるよう運行事業者と協議を行う。
44	蛭川	地域内デマンド便			○	142	200	1.4	デマンド			タクシー的利用がされている。	引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
45	蛭川	地域外デマンド便(恵那行)			○	156	372	2.4	デマンド	地域から恵那行きの利用者が多い。			